

## ニュージーランドにおける

# 就学前教育の歴史ならびに現状 (二)

松川由紀子

### (3) ウェリントンのキンダーガルテン

ウェリントンにおいても、社会的必要からキンダーガルテン運動が着手され、一九〇五年、ウェリントン・フリーキンダーガルテン連合（後の協会）が結成された。指導者のリッチモンド嬢 (M. Richmond) は、

ウェリントンのフレイベル会の会長であった、彼女は路上で、ほこりだらけの汚い舗道のごみにまみれてあちこちにすわって、明らかによくない言葉を習っている、学校に行くにはあまりにも幼い子どもたちを見た。このような放っておかれた幼児たちを見て、彼女のやさしい母のような心は痛ん

だ。「こうした子どもたちのためにキンダーガルテンを設けなければならない」と彼女は述べ、そのための仕事にとりかかったのであった。<sup>(8)</sup>

リッチモンド嬢は、一九〇五年、三〇回以上も午後四時タイタイムでキンダーガルテンの必要を話し、資金集めのための計画をたてた。もともとの計画は、試験的なキンダーガルテンを三年間、支えるためのものであった。政府への働きかけを最初から考えていた（なお、ウェリントンはすでに当時から首都であった）。一九〇六年、（ヴィヴィアン通りのパプチストの教室に、そして

三カ月後に) トーリー通りのミッションホールに、バンクス嬢の指導下、一名の学生の助力の下に、試験的なキンダーガルテンが設けられた(一九〇九年にはタラナキ通りの教会ホールに移り、翌年には付近のある建物の二階が賃借された)。開園の日は十三名の幼児が参加したが、二週間で三十八名に増加した。リッチモンド嬢は、このキンダーガルテンを政府に引き受けさせようと働きかけたが、譲り受けられるべきではないとされた。<sup>(9)</sup>しかし、一九〇九年、教育省は、任意のキンダーガルテンに関する政策を定式化し、キンダーガルテンを承認し、監査し、助成金を交付することを認めた(政府は、一ポンド募金につき一ポンドを助成した)。

ウェリントンの初期の協会の組織は、数名の専門家教師と事務所保持者からなる事務局、婦人たちの財政委員会、高い地位の紳士たちからなる助言委員会があつて、会員のさまざまなタイプの財政的寄付に基づいていた。財政委員会は、二〇名の地区リーダーからなつており、そのリーダーの資格が与えられるためには十五名の准会

員をみつければならなかつた。准会員は、年に一ポンドを寄付する約束をした者であつた。この一ポンドは、年に二シリング六ペンスを支払う支持者、八名から集めることができた。初期の覚え書きには、地区リーダーになつたのは誰で、准会員から支払われた金額はいくら、などの記述で先占されていた。

資金獲得とともに執行部の関心があつたことは養成学生数であつた。学生は養成費用を支払わねばならなかつたために応募する者は少なく、それ故、受け入れる幼児数も制限され、多勢の補欠人名簿(ウェイティングリスト)となつた。つまり、一九一一年、フリーマン嬢からウェリントンのキンダーガルテン教師養成所の所長に任命され、組織的な養成が組まれるようになったのだが、当時は、学生一名につき十二名の幼児を受け入れていたので、学生数によって幼児数が決定されていた。そして、幼児数は、人頭補助金制度下の政府補助金を決定した。一九一四年より幼児ひとりあたり二ポンドの均等割の助成金が交付されていた。<sup>(10)</sup>その後、助成金は、十七年

には二ポンド一〇シリング、十九年には三ポンド二シリング六ペンスと増加した。そのため、養成学生数は重要な問題であったわけである。当時の学生は、午前中はキングダーガルテンで教師を助力し、午後は講義を受けていた。リッチモンド嬢は、こうした学生たちについて、「公立学校教師として資格をとることのできない多くの少女は、キングダーガルテン学校に要求される忍耐ならびに母性の資質をすべて持っている」とみて、「援助を要する母親たち、養育を要する子どもたち、母性的なやり方で養成を要する少女たち、この三者の必要にキングダーガルテンは貢献する」と述べたが、実際的には、キングダーガルテンの幼児たちの世話の多くをこうした学生たちによりかかっていた。

一九一五年までには、四つの地区にキングダーガルテンが設立され、これらはともにリッチモンドキングダーガルテンとして知られていた。一九一七年、協会の名称がリッチモンドフリー・キングダーガルテン連合（一九一一年に改称）からウェリントン・フリーキングダーガルテン協

会に改称された。翌年、協会は、タラナキ通りの工場を購入し、校舎に改造して、百名の幼児ならびに養成学生のための独自の建物を得た。このタラナキ通りキングダーガルテンは、一九六二年までウェリントンにおけるキングダーガルテン教師養成所であった。

ちょうどこの頃、キングダーガルテン教師として養成され、その後三〇年間もキングダーガルテン教師として働いたスコット嬢 (T. Scott) が、当時のキングダーガルテンならびに教師養成について回想している記録が残されている。当時の様子を生き生きと具体的に伝えているので、次にこれをみてみたい。<sup>(10)</sup>

一九一四年、スコット嬢が女学校四年に在学していた時、キングダーガルテンに関心のある女生徒と話すために、リッチモンド・フリーキングダーガルテン連合会長のライリー嬢が来校した。スコット嬢は興味を感じたので、友人のレイク嬢とともにライリー嬢に会い、そしてタラナキ通りのキングダーガルテンを訪ねたのだが、あま

りの貧民区にショックを受けるのであった。

両親を説得して、翌一九一五年、十六歳の時、レイク嬢とともに二カ年の教師養成を受けることになった。同期の学生は五名で、その出身階層はまちまちであった。

養成費用は無料であったという。多分、連合が何らかの方法で費用を工面していたのであろう。学生たちは、午前は四つのキンダーガルテン（タラナキ通り、ブルックリン、マラヌイ、南ウエリントンにあった）で働き、午後はタラナキ通りキンダーガルテンで講義を受けた。当時の養成コースの科目は、児童本性の知識、自然研究、キンダーガルテン原理ならびに実際、クラス教授、板書、歌唱、英語ならびに教育史、水彩、包帯のしかた、幼児の一般的な保育（衣、食、睡眠など）、手工などであった。

一九一八年、養成コースを終えた五名のうち、スコット嬢を含む三名がタラナキ通りキンダーガルテンの共同の責任者（教師）に任命され、その九月、キンダーガルテンは工場を改造した独自の園舎に移動した。その後、

スコット嬢はあちこちのキンダーガルテンで働いたが、一九二四年、再びタラナキ通りキンダーガルテンに教師として任命され、退職の年（一九四八年）までその地位にあった。

当時の保育はどのようなものであったのだろうか。朝八時半にすでに子どもたちが登園し、どぶにすわって教師や学生たちが来るのを待っていた。まず朝の歌から始まり、それからお話（当時は絵本は使用されていなかった。）、そしてブロックや図画（当時はぬりえ）などの手仕事をした。ほとんど毎日、フレイベルの遊具をひとつ用いたという。第一ならびに第二の遊具は、教師がいろいろ動かして、その動きを示し、子どもたちはそれで形や色の学習をした。第三、第四の遊具は、教師の指示通りに使用するようになされていた。複雑なフレイベルの遊具は、片づけるのに時間がかかるので使用されなかったし、モンテッソーリの教具も若干あったが、あまり役に立たなかったので用いられることは少なかったとい

う。子どもたちはよく管理されていて、教師の指示に従わなければならず、従わない子は孤立させられた。

キンダーガルテンが賃借の建物にあった頃は、園庭がなかったので、学生たちがよく散歩に連れ出した（一〇時から十二時まで）。子どもたちは年少、年中、年長に分けられていて、特に年長児（四歳児から五歳児の頃の者）はよく遠出の散歩をした。駅や飛行場、消防署、警察署、搾乳場などへ社会勉強を兼ねて行った。帰り道、兵舎の前を通った時、兵士たちがりんごやパン、ジャムなどをくれた（当時は戦時中）。

子どもたちは順々に当番になり、エプロンをしてテーブルをふき、りんごやラスクを配ったりした。ラスクは教師や学生たちがパン屋からパンを購入して、焼いて作ったものである。降園時になると輪になって、国王陛下万歳を歌い、教師と握手をしてから帰った。

家庭訪問もよくしたらしい。週一ペニー寄付できるかどうか母親に尋ねたという。酒飲みの父親のいる家庭の子どもには特別の保護が必要であったし、必要以上に厚

着をさせている中国人の子どもたちや全く不潔な子どもたちもいたので、母親たちと話し合うことはとても重要な教師の任務であった。

また、キンダーガルテンに対する理解を幅広く得るために、一九一八年にはキンダーガルテンの実演が町のホールでなされた。そして、この年の十一月にはインフルエンザが流行し、すべてのキンダーガルテンは休園され、教師や学生たちは教員養成大学に行き、プランケット看護婦の指示を受けて乳児の世話をした。

以上が、スコット嬢の回想である。なお、新しいタラナキ通りキンダーガルテンにはすばらしい園庭があったが、これは地区のすべての子どもたちに開放された。そして、一九一八年、所長は教育的、社会的機能をもつ母親クラブを組織した。タラナキ通りを除いた各地区のキンダーガルテンでは、親たちが、ラスクの資金に対する寄付という形でしばしば運営経費を助力した。<sup>(2)</sup>以後、キンダーガルテンの発展は親たちの力によるところが大き

くなつていったが、それは、全国的な傾向になつていった。

#### (4) オークランドのキンダーガルテン

一九〇四年、オークランドのキンダーガルテンは、(既述の四都市のキンダーガルテンと同様に) 政府より助成金を受けた。<sup>(13)</sup> すでに当時、私的なキンダーガルテンがいくつかあつたようだが、記録は残されていない。

一九〇八年に、オークランド・キンダーガルテン協会(後のオークランド・フリーキンダーガルテン協会)が設立され、翌年、第一回の年次会議が開催され、最初のフリーキンダーガルテン設立に対する関心がマイアーズ夫人(U. Myers)によって高められた。そして、一九一〇年、ヴィクトリア公園内のクリケット仮小屋にてローガン・キャンプベルフリーキンダーガルテンが開始され、数カ月後に、ローガン卿ならびにキャンプベル嬢の寄付によって同公園内に専用の園舎が建てられ、そこに移動した。その時、公の会議が開かれ、マイアーズ夫人

が演説をしてキンダーガルテンの必要を述べたのだが、それがニュージージーランド・ヘラルド紙(一九一〇年一月二〇日付)に報道された。

……オークランドには、ぶらつき者や節約心のない人、落ちぶれた人や金使いの荒い人たちのいる地域には避けられない、スラムの子どもたちがありました。直面する問題は、この幼い放つておかれた子どもたちが不健全な環境に生活するままにしておくべきかどうかでした。こうした子どもたちのある者は、父母が仕事に出かける間、通りや騒々しい裏庭に投げ出されたり、汚い台所に閉じ込められたり、故意に放置されるか放つておかれたりする運命にありました。フリーキンダーガルテンは、そうした子どもたちを明るくより品のよい環境に入れて自然な発達によって子どもたちの性質の最上のものを導き出して、自尊心のある、勤勉な子どもたちにするための手段を供給しようとするのであります。<sup>(14)</sup>

オークランドにおいても、こうした恵まれない子どもたちのためにフリーキンダーガルテンが設立されていったのだが、一九〇八年の協会の年次報告では、協会の目的として次の二点をあげている。<sup>(15)</sup>

①親たちが教育費の支払いのできるところの子どもたちのために、オークランド郊外にキンダーガルテンを設立することを援助すること

②貧しい子どもたちのためのフリーキンダーガルテンを町中に設立すること

当時、すでに私的なキンダーガルテンは設立されていた。その後の協会の記録には、私的なものについてはみられなくなった。このことは、協会の運動の中心が②に向けられたことを示している。一九一二年、一三年に第二、第三のフリーキンダーガルテンが開園された。

オークランドでは、最初のフリーキンダーガルテンが設立される以前に、すでにキンダーガルテン教師養成がなされていた。<sup>(6)</sup>一九〇九年、七名の学生は、オークランド教員養成大学と技術学校の講義に出席し、実際的な知識は、シドニー教員養成大学の卒業生によって経営されていた、二カ所の私的な協力のキンダーガルテンにおいて得ていた。翌一九一〇年には、英国の全国フレージャー連合の上級免許状をもっていたギブソン嬢 (M. E.

Gibson) がキンダーガルテン教師養成所の所長に就任し、一年生八名、二年生七名が教師養成を受けた。

養成所の場所は、当初はクリケット仮小屋のローガン・キャンペルキンダーガルテンであったが、年末にはその新築の園舎に移り、一九一六年にはアイアーズキンダーガルテンに移った。一九一〇年、一年に免許状を得た十五名の卒業生は、四名が他の町で私的なキンダーガルテンの教師の職につき、数名は私的なキンダーガルテンを開設したという。

以上、ダニーデン、クライストチャーチ、ウェリントン、オークランドにおける初期のフリーキンダーガルテンについて述べてきた。ニュージーランドのキンダーガルテンの歴史は、それぞれの協会の歴史であるが、これら四都市がその中心になっていて、その後の歴史をつくり上げている。これら四つの協会に共通することは、恵まれない子どもたちのための社会的必要からフリーキンダーガルテン運動を始め、そしてただちに教師養成を組織していったことがある。ダニーデンにおいては記録が

残されていないので、正確な時期はわからないが、一九一一、一二年頃だと思われる。<sup>(8)</sup>

なお、南部のインヴァーカールギルでは、病後ならびに入院中の母親をもつ子どもたちのために、キンダーガルトンの設立が主張され、委員会が設置され、一九二一年に最初のフリーキンダーガルトンが設立された。

その他の地域においては、フリーキンダーガルトンの設立は、そのほとんどが一九四〇年代以降である。私的なキンダーガルトンはいくつもあったようであるが、記録は残されていない。

では、次号に、一九二〇年代以降のキンダーガルトン運動の発展についてみてみよう。(山口女子大学)

註

(8) Lockhart; *op. cit.*, p. 95. 以下の記述もこれを参照した。なお、一九〇四年、政府は、オークランド、ウェリントン、クライストチャーチ、ダニーデンの四つのセンターで割けるように五〇〇ポンドを助成した (Downer; *op. cit.*, p. 14)。これは、政府によるキンダーガルトン運動に対する助成の最初であった。このことは、ウェリントンにおいてすでに何ら

かのキンダーガルトン運動が展開していたことを示しているが、記録は残されてゐない。

(9) Anne Meade; *An Organizational Study of the Free Kindergarten and Playcentre Movement in New Zealand*. Unpublished Ph. D. thesis in Sociology, Victoria University of Wellington, 1978, pp. 114-115. 以下の組織面等の記述もこれを参照した。なお、著者は、ウェリントンのヒューギラード教育研究諮問機関の幼児教育部門の主任研究員である。

(10) Downer; *op. cit.*, p. 14.

(11) Geraldine McDonald (comp.); *An Early Wellington Kindergarten*, as described by Ted Scott, Wellington: New Zealand Council for Educational Research, 1975. なお、編者は、ヒューギラード教育研究諮問機関の幼児教育部門初の研究員当時で、現在は副所長。

(12) Meade; *op. cit.*, pp. 115-116.

(13) 註(8)を参照のこと。

(14) David Barney; *Who Gets to Pre-school? Wellington: New Zealand Council for Educational Research*, 1975, p. 53. なお、著者は、オークランド大学の教育心理学の上級講師(当世)。

(15) *Ibid.*, p. 53.

(16) Lockhart; *op. cit.*, pp. 11-12. 以下の記述もこれを参照した。

(17) Meade; *op. cit.*, p. 100.